

## 特別講演 1

### 「心血管疾患と糖尿病からみた

### メタボリックシンドロームの臨床的意義」

東京大学大学院医学系研究科 臨床分子疫学講座 准教授

後藤田 貴也 先生

メタボリックシンドローム(MetS)は、共通の成因的基盤をもととして複数の危険因子が重複し、高率に心血管疾患を引き起こす病態として提唱された。このような臨床概念が新たに提唱されるに至った背景には、糖尿病や高血圧、高脂血症などの既存の単独の危険因子を管理対象とした場合に、漏れ落ちてしまう心血管疾患のハイリスク群を拾い上げる必要性があった。さらに MetS 該当者は、2型糖尿病発症のハイリスク群、あるいは高率に耐糖能異常を有する群、としても位置付けられる。

これら臨床上的重要性とともに、わが国独自の診断基準が策定され、また今春から健診・保健指導の現場への導入が開始されたことから、MetS に対する関心が広く高まっている。しかし一方、その診断基準をめぐる問題点が指摘され、その診断価値に対する疑念が表明されているのも事実である。

本講演では、心血管疾患および糖尿病の発症予防と治療の観点から、メタボリックシンドロームの意義と問題点に関して考察を加えたい。